

2025 年 2 月 27 日
シブサワ・アンド・カンパニー株式会 代表取締役
渋谷 健

第 31 回「新しい資本主義実現会議」コメント

日本の新しい時代の成長型経済を実現させるためには、国内投資および旧来の欧米・中国への輸出の眼中だけに留まるべきでなく、現在の世界情勢で存在感が増しているインドやアフリカというグローバルサウスへの意識を高めるべき。昭和時代の（日本で）Made In Japan という成功体験から、平成時代の（貴国で）Made By Japan から、令和時代は（貴国と）Made With Japan という課題解決型の収益モデルを共創すべき。

企業の積極的な投資行動を促すために“Cost of Inaction”という今、行動しないことは未来へ膨大な費用を支払っているという概念を官民で推進すべき。

I. 課題解決型事業による経済安全保障の強化

◎ 論点案で示してある「AI・半導体産業基盤フレーム」では、特に生成 AI の発展から生じる電力消費の大幅な増加の課題解決の強化に期待したい。たとえば、日本企業が研究開発を進めている高速データ処理・大容量データ送信の消費電力を大幅に削減できる「光半導体」の実業化は経済安全保障の国家戦略として重要。

◎ 多くの国々から大量な人々が移動する新しい時代では感染症対策などを含むグローバルヘルス（国際保健）は遠い国の対岸の火事ではなく、日本の経済安全保障に直結している。ODA を援助・支援に留まることなく、触媒として、民間企業の課題解決型技術や事業を促進すべき。

第 3 1 回「新しい資本主義実現会議」コメント

II. 中堅・中小企業のグローバルな事業展開

◎ 日本の中堅・中小企業のグローバルな事業展開の潜在可能性は極めて大きい一方、担い手となる人材という課題解決が急務。外国人の高度人材のみならず、技能特定実習生や高専生など幅広いタレントを中堅・中小企業のグローバル事業展開の共創価値のパートナーとして活躍できる地域コミュニティの環境を戦略的に整備すべき。

III. 新たな勝ち筋に地域創生から地域“創楽”へ

◎ 地域創生には地域で「楽しみ」が創れることが不可欠だ。その楽しみの中核に「食」があり、国家戦略としてグローバル展開すべき。日本食の勝ち筋は新鮮な素材であり、その新鮮さを保持ながら世界へ提供できる低温・高湿の新しい保管技術で展開している事業もある。

<https://zeroco.co.jp/> [http](http://)